

< 報道発表資料 >

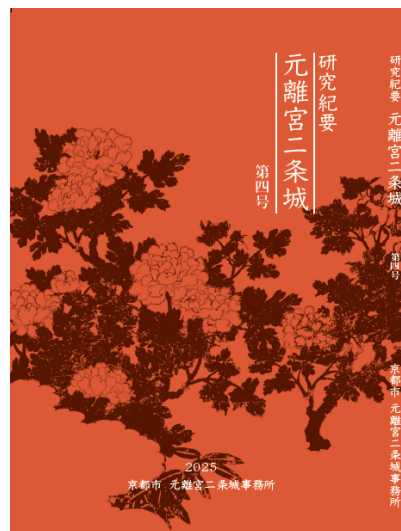
令和 7 年 4 月 1 日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

『研究紀要元離宮二条城 第 4 号』の発行

世界遺産・二条城では、1603年の徳川家康による築城から現代に至る、「元離宮二条城」を中心とした京都の歴史・文化に関する調査・研究を進めています。その成果と文化財に関する記録の発信のため、研究紀要を発行しています。

この度、二条城に設けられていた複数の番所や、将軍として229年ぶりに上洛した14代徳川家茂が、二之丸御殿を利用した記録などを取り上げた第4号を刊行します。



【主な内容】

◆かつて数多く設けられていた二条城の番所

元離宮二条城の東大手門の脇には、現存するものでは数少ない江戸時代の番所があります。かつては、それ以外にも様々な役割の番所が城の内外にありました。史料にもとづき、それぞれの番所の位置や意味合いを、二条城に派遣された幕府直轄軍である「二条在番」との関係を中心に置き明らかにします。

◆江戸城で催された立花の儀式

元治元年（1864）二条城では、将軍の代替わりに伴う参賀が行われました。慣例では、その後に華道家元の池坊が立花の儀式が催されるはずのところ実施されず、幻に終わりました。実際のところ将軍を前にして行われる立花の儀式は、どのように行われたのでしょうか。史料を読み解いてその歴史を辿ります。

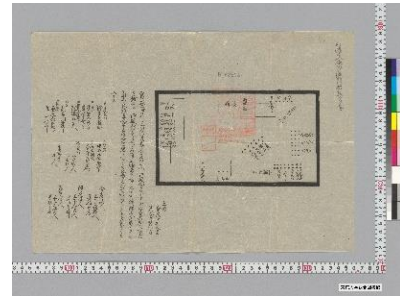
◆14代将軍・徳川家茂の近臣が残した記録にみる二之丸御殿の使われ方

これまで、江戸時代における二之丸御殿の具体的な使われ方は、ほとんど明らかではありませんでした。14代将軍の徳川家茂が文久3年と元治元年（1863-64）に上洛し、二条城に入った時期の出来事を近臣（小姓頭取衆）の野村貫三郎が書き残しました。その記録の紹介を通じて、二之丸御殿の使われ方や増築のあり様を浮き彫りにします。

◆御清所と金蔵の使い方を示すめずらしい絵図

江戸幕府には、直轄の組織として「大番組」と呼ばれる軍がありました。そのうち「二条在番」は、寛永期の後水尾天皇の行幸の後から幕末まで、二条城を拠点としました。彼らの活動や生活がどのようなものであったかについて、史料に基づき、その実像に迫ります。

今回、翻刻を掲載する東京大学総合図書館蔵「二条在番諸絵図外絵図」は、二条在番の業務について、絵図を描き記録したものです。謎多き彼らの仕事を、視覚的に垣間見ることが出来ます。とりわけ、御清所と金蔵の使用法についての絵図はほかになく、貴重なものです。



東京大学総合図書館蔵「二条在番諸絵図外絵図」

◆離宮時代の「二条城」

二条城が二条離宮へと変貌する過程を論じます。近代に入り、二之丸御殿白書院の金具や、各棟の破風の葵紋が菊紋に付け替えられ、親王家のひとつである桂宮の御殿が本丸に移築されるなど、徳川の城であった二条城は、皇室の二条離宮へとその姿を変えていきます。その過程で、かつての「二条城」が離宮として整備・保存された結果、現在までその価値を受け継ぐことが出来たと言えます。



二之丸御殿白書院の菊紋引手金具

【規格】

A 4 判、白黒・一部カラー、200頁（非売品）

【配架先】

国立国会図書館

京都府立図書館、京都府立京都学・歴彩館

京都市立図書館

文化庁、京都府教育庁

城郭施設を所有する市町村（大阪市、金沢市等）の所管課

その他関係機関

※4月以降に配架し、4月14日（月）迄には元離宮二条城のホームページでも公開します。

(https://nijo-jocastle.city.kyoto.lg.jp/introduction/research/research_study/)

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096

FAX：075-802-6181